

1 播種

- ・種もみの休眠がやや深いため、浸種を十分に行いましょう。
- ・厚まきやムラまきにならないようにする。

試し播きにより
 播種量を必ず確認する

表1 播種量の目安

(g/箱)

品 種	乾 粳	催芽粳
酒米：五百万石・雄山錦・山田錦	140	175
うるち・もち米：コシヒカリ・てんこもり・新大正糯	120	150

2 ハウス搬出後の管理 ～ハウス内の高温は、病気の発生と軟弱徒長の原因～

(1) 搬 出

- ・搬出後に晴天が予想される場合は、覆土を落ち着かせる程度にかん水し、葉焼けを防ぐ。ただし、低温日の場合はかん水を控える。
- ・搬出直後でも、ハウス内の気温が25℃を超える場合は換気する。

(2) 緑 化(搬出後2～3日程) ～適切な温度管理、過湿に注意～

- ・寒冷紗の被覆は2～3日程度とする。
- ・第2葉の葉先が寒冷紗の上に出てきたら、寒冷紗をとる。

特に特別栽培米コシヒカリは徒長しやすいため、早めにとる

(3) 硬 化 ～高温、かん水過多に注意し、早めに換気を！～

- ・かん水は、1日1回早朝に行い、土が乾いたら適宜かん水する。
- ・田植えの1週間前からは夜も換気し、外気に慣らす。

表2 ハウス管理の目安

		緑化期	硬化期
育苗日数		2～3日	13～15日
温度管理	昼間	25℃以下	
	夜間	10℃以上	
水 管 理		かん水過多に注意 水不足による葉焼けに注意	原則、朝1回 土が乾いたら、適宜かん水
換 気		25℃を超えないように、換気	十分に換気



被覆資材をとる目安



寒冷紗の上から一部の苗の第2葉が出始める頃

(4) 病害対策 ～病害対策は迅速に！～

- ・薬剤は防除時期、希釈倍数、使用回数等を確認して適正に使用する。
- ・散布する場合は、床土を乾かし、かん水を兼ねて行う。

表3 搬出後の病害防除

病 害	薬 剤 名	希釈倍数	散布量	使用時期等
白カビ・青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500ml/箱	播種時から緑化期 (播種14日後まで)(2回以内)
ムレ苗・立枯病	タチガレエースM液剤	500倍	500ml/箱	播種時又は発芽後(1回)

※特別栽培米は上記の薬剤は使用できません。

※タフブロックを使用した場合はダコレート水和剤を使用しない。

搬出後に低温(5℃前後)だった場合やムレ苗の常発地では予防的に散布する。

3 ほ場準備 ～ほ場の均平に心掛ける！～

- ・あらかじめ、ほ場の高低差をなくし、水管理が均一にできるようにしておく。

JAなんとメールマガジンの登録はこちらから→
 営農情報をメールで受け取れます。



※詳細は【営農のてびき】を参照して下さい。お問い合わせは、砺波農林振興センター(32-8147)、JAなんと営農部(62-0261)へ